

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

|                      |   |                        |             |      |
|----------------------|---|------------------------|-------------|------|
| 教育・研究活動名             | 防災プロジェクト:人と人つながり事業  |                        |             |      |
| 申請大学・高校等名            | 大学及び<br>高校等名  | 武庫川女子大学                |             |      |
|                      | 活動<br>グループ名   | 福祉ボランティアサークルムコネクト      | 参加学生<br>等人数 | 34 人 |
| 指導責任者名<br>及び連絡先      | 学部・学科等<br>名称  | 武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科 |             |      |
|                      | 責任者氏名   | 松端克文 / 大岡由佳            | 連絡先<br>電話番号 |      |
|                      | E-mail  |                        |             |      |
| 協働する市民活動団<br>体及び代表者名 | 団体名   | 尼崎市保護司会 / 一般社団法人 TICC  |             |      |
|                      | 代表者氏名   | 正岡康子 / 毎原敏郎            | 連絡先<br>電話番号 |      |
|                      | E-mail  |                        |             |      |
| 教育・研究活動<br>目標        | 近年、各地で自然災害が起こりその対処に追われているが、予めの災害への備えは市民レベルでは行われていない傾向にある。とくに尼崎市では、南海トラフの影響は小さくはないことが予測されており、市民に防災の意識を高めてもらうことが求められている。今まで、被害や被災のトラウマ支援を行ってきた地域機関とともに、市民への防災啓発活動を行い、災害を自分事としてとらえることができる市民を増やす。この事業は、これに関与する学生らにとっても、武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科のアドミッション・ポリシーの立学の精神とそれに基づく、豊かな社会の実現に貢献する者の育成にもつながるものでもある。  |                        |             |      |
| 活動内容及び<br>実績、評価      | <b>(活動内容及び実績)</b><br>本活動は、2023年5月1日に TARO COFFEE の報告会に武庫川女子大学ボランティアサークル・ムコネクト所属の学生とともに参加することから始まった。本事業の取り組みとして5月27日に「人々のトラウマから支援事業を考える」として、キックオフを尼崎市更生保護サポートセンターにて行った。保護司会、尼崎BBS会、TICCの地域機関とともに、コミュニティコーピングという様々な社会問題を挑戦するゲームを皮切りに、地域の防災意識や地域で展開したい活動について考える機会をもった。学生らの希望から尼崎市の子どもたちに接点をもった事業展開をすることになる。<br>その後、学生らと話し合い、「防災お菓子ポシェットづくり」事業を運用していくことに決定した。11月7日に防災お菓子ポシェットづくりの講座を学生らが受講し、「一般社団法人おいしい防災塾」の学生アンバサダーの永久認定を受けた。本格的に学生らによる子どもたちを対象にした防災お菓子ポシェットづくり企画開催の準備が始まり、企画の事業内容の検討会議を毎週行い進めた。子どもたちが好むだろうお菓子の選定、購入から始まり、スタッフ募集説明会の開催、スタッフのユニフォーム作成や、当日の資料作成、プレゼンの練習など、開催にあたり行うことは多くあった。広報も、市報に出したり、子どもの支援団体が集う企画に広報に出向いたり、ピラを公共施設や小学校に置いてもらったり、ピラを公園等で配るなど、今までに学生らが行ったことのない活動を展開した。<br>12月2日にトレピエにてその企画を行い、16名の子どもたちとその保護者らに防災について考えてもらう機会をもった。また、同日、午後に令和5年度福島県県外避難者への交流会(一般社団法人ふくしま連携復興センターから一般社団法人 TICC が委託を受け運営)の設営を手伝うなど、実際の被災者支援に従事した。<br><b>(評価)</b><br>「防災お菓子ポシェットづくり」に参加した子どもと保護者の参加満足度は高く、また、その事業に関与した学生らの防災意識も高まった。子どものアンケートからは、「たのしかった」「またあったら行く」「おうちでつくりたい」といった意見があった。保護者からは「楽しく防 |                        |             |      |

災のことが考えられてよかった」「防災について子どもと一緒に考える良いきっかけになりました」といった意見があった。

また、事業に関与した学生らからは、「防災だけではなく、親子の仲を深める意味でもとてもいい企画」「子どもと関わることが出来る機会が普段あまりないので、子どもとの接し方を知るためにとてもいい経験になりました」といったコメントが寄せられた。

連携団体である尼崎市保護司会や一般社団法人 TICC も、広報活動を通じて関与する中で、地域の人災のみならず防災意識を意識するよい機会となった。また学生らとの交流によって、世代間を超えて新たなものを生み出す意義についても考えることができた。

想定していた活動成果に対する達成度合いとしては、学生らはより関与した者に高く、関与がそれほどなく単発で参加した学生にとっては高くはなかった。他機関が関わる地域での取り組みになるため、全体像が見えないと行動に移すことが難しい点があったが、大枠が理解できると、主体的・積極的に取り組む姿が印象的であった。実際の地域の子どもたちに接することで、地域福祉に大きな関心を寄せる学生も出てきた。

また、副次的なものではあるが、5月27日に「人々のトラウマから支援事業を考える」で出会った尼崎BBS会の関係者らと、本事業に関わった学生間で、尼崎市の子どもへのスポーツ交流事業に取り組む活動を展開し始めるなど、新たな地域活動が開始されており、本市の更生保護領域への若者の関与も強まったと考えられる。

本事業への関与を通じて、学生らの地域に貢献したい想いが強まった。“自分の地元の母校で防災お菓子ポシェットづくりを広めたい”といった自分の地域を愛する確固とした思いを自覚する機会になったようである。実際の地域活動を通じて、もっと地域福祉と関わってみたい想いを強めた学生らが多くいたように考えられる。更なる地域展開を検討したいと考えるに至っている。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします